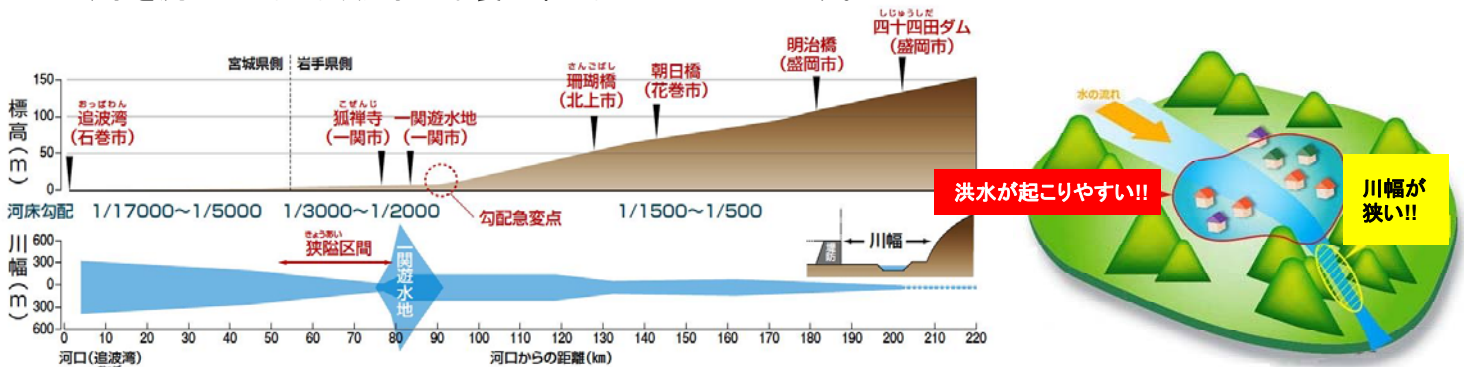


北上川上流狭隘地区の治水対策

前号で一関市藤沢町小日形で行う樋門工事についてお知らせしましたが、今回は同地区を含む北上川上流狭隘(きょうあい)地区の「特徴」と「治水対策」を紹介します!!

1. 特徴

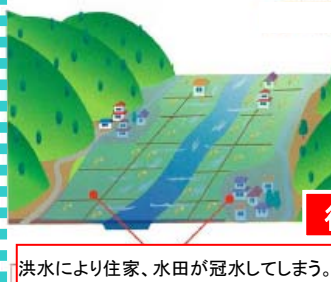
「狭隘(きょうあい)」とは、面積などが狭くゆとりがないことを意味します。一関遊水地から宮城県境までの約26kmの区間は、両岸が山々に囲まれ川幅の狭い(最も狭いところで100m程度)地形となっており、この区間を「北上川上流狭隘地区」と呼んでいます。また、川幅が狭い上に、一関遊水地を境として急に川の勾配が緩やかになることから、水を流しきれなくなり洪水の常襲地帯となっけてしまっています。



2. 治水対策

狭隘地区での治水対策は、川と急峻な山々に囲まれている地形的特徴から、従来の連続堤による整備では田畑や宅地が著しく減少すること、また堤防整備延長も長く膨大な事業費と年月を要することから、「輪中堤」又は「住家移転の対策」を基本として進めています。

現在の狭隘地区



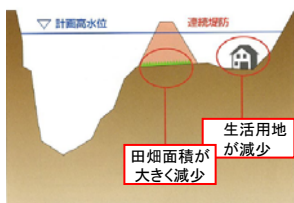
狭隘地区の治水対策実施方針

連続堤の整備イメージ

連続的に堤防を整備することで住家を洪水被害からまもる。

従来

連続堤の整備の場合...



田畑・宅地面積を大きく減少させてしまうと、堤防延長も長く、膨大な事業費と年月を必要とします。

輪中堤の整備イメージ



輪中堤により整備することにより...

- ① 輪中堤は連続堤と比較して、堤防を設置する長さが短くすむことから迅速な整備が可能となり、早期に治水効果を発揮することができます!!
- ② 田畑や宅地面積の減少を連続堤の整備より小さくすることができます!!
- ③ 連続堤を設置するよりも、事業費が安価となります!!

↑H19.9出水状況(県境付近)
H14.7出水状況(黄海川付近)↓



この治水対策は、狭隘地区約26kmのうち、一関遊水地から砂鉄川合流点までの約10kmは平成22年度までに完了済みで、今後は砂鉄川合流点から宮城県境までの残り約16kmについて整備を予定している地域にお住まいの方との合意形成を図りながら事業を進めてまいります。